

4. ワークショップによる調査・整理

計画策定に役立てていくため、日頃から地域等において子ども支援に関わっている支援者や相談員等の参加のもと、子どもを取り巻く本市の実態について学び・話し合うことで共有化を図り、宜野湾市に必要な子ども支援を考える場となるよう、ワークショップを開催して意見交換を行った。

ワークショップでは、普段の活動から見えてくる子どもの貧困・社会的孤立に関する現状について意見交換を行い、その背景要因は何か・解決すべき課題は何かを考えるとともに、課題解決に向けた具体的なアイデアを提案していただき、その結果を子ども支援計画に反映させていくことを目的としている。

なお、ワークショップの開催にあたっては、琉球大学地域連携推進機構の協力のもと、「支援員養成研修講座」も併せて開催し、子育て支援に対する考え方・目標とすべきこと、地域で支える体制の重要性等について理解を深めるとともに、それぞれの支援者や相談員同士が一同に会することによりお互いの取り組みを知るきっかけとし、今後の支援活動に役立てていただくことを企図している。

各回の流れは以下のような内容となっている。

■ 「宜野湾市に必要な子ども支援を考える」ワークショップの概要

テーマ	参加者	概要
第1回ワークショップ 「現状・課題の確認」	20名参加	<ul style="list-style-type: none">子ども支援計画の策定とワークショップの目的について宜野湾市の現状・アンケート結果の概要報告琉球大学人文社会学部の本村真教授による講義（その1）子どもの貧困・社会的孤立の現状、問題の背景要因と課題（KJ法により、付箋紙に個別の特性と課題を書き出した上で、項目毎に整理）
第2回ワークショップ 「解決方策の検討」	15名参加	<ul style="list-style-type: none">琉球大学人文社会学部の本村真教授による講義（その2）前回WSの振り返り、課題解決の具体的提案の検討（KJ法により、付箋紙に個別の特性と課題を書き出した上で、項目毎に整理）

■ワークショップの概要

第1回ワークショップの概要

日時：平成30年10月15日（月）13:00～15:00

場所：宜野湾市社会福祉協議会2階ホール

内容：第1回ワークショップでは、アンケート結果の概要や基礎データを紹介するとともに、連続講座第1回を開催して子ども支援の目的等の再認識を行った上で、参加者を3グループに分け、現状・課題について各人の意見を発表し、共有化を行った。



あいさつ・趣旨説明。



本村教授による講義（連続講座第1回）。



グループ別討議の様子。（Aグループ）



グループ別討議の様子。（Cグループ）



グループ別討議の様子。（Bグループ）



付箋紙を使い、KJ法により意見を出し合った後、全体発表を行った。

第2回ワークショップの概要

日時：平成30年10月29日（月）13:00～15:00

場所：宜野湾市社会福祉協議会2階ホール

内容：第2回ワークショップでは、連続講座第2回目の開催の後、各グループで課題解決にむけた具体的な提案について検討し、全体発表を行った。



本村教授による講義（連続講座第2回）。



意見を書き出す参加者の様子。



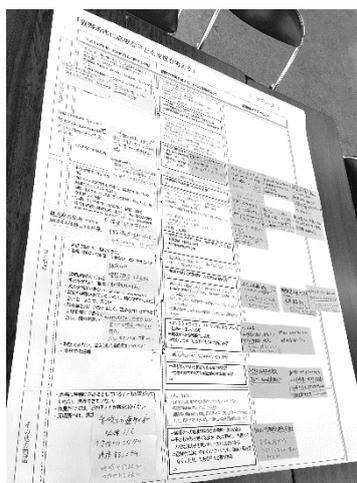
グループ別討議の様子。



全体発表の様子。（Aグループ）



全体発表の様子。（Cグループ）



グループ討議の成果（Bグループ）

次頁以降に全2回のワークショップ結果を示す。

「宜野湾市に必要な子ども支援を考える」

(Aグループ)

	子どもの貧困・社会的孤立に関する現状	問題の背景としてどんな課題があるか (解決すべき課題は何か)	課題解決のアイディア
生活習慣が確立されていない	<ul style="list-style-type: none"> 片付けができていない家がある。一物どこにあるか探せない状況であり、学習用具を持たず、授業に参加することに繋がっている。 学校の準備ができていない。忘れ物や不足が多い。 家の中がゴミだらけ。 服や靴下が汚れていて、洗濯せずに何度も使用している。 「お風呂に入った」と言うが、ニオイがある。 ダニに噛まれた跡ある、シラミがいる等、不衛生。 給食の時間に合わせて(11時半頃から)登校する子どもがいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 両親が共働きで、不在時間が長い。 親の生活の在り方(朝帰り、留守、生活習慣不確立) 県外から身寄りなく移住してきて、車を所有していたために生活保護を受けず、夜仕事をやる。朝起きれないため、登校が遅くなる。 <p>→①-1 親の意識を変え、生活習慣を改善する必要がある。 ①-2 親が笑顔になるとよい。 ①-3 親の味方を作る必要がある。「貧困でも元気さあ」と言える環境をつくる必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと子どもの繋がりを活かし、起きれない子どもは子どもたちが寄り添って行く。 子どもへの支援を通して親に関わる(不登校の子がいる家庭等へは訪問する)。 歯科検診(むし歯)から貧困家庭の子を発見するシステムをつくる。
食生活・食事抜き等	<ul style="list-style-type: none"> 朝ごはんや夕ごはんを食べない子どもがいる。 朝食がポテトチップス(4歳児)。 食事を自分で作って食べている子どもがいる。(小学校で「家事手伝いをしているか」問うと「いつもひとりだけでやっている」と回答) 夜、夕方ひとりで食事をしている。子どもが自立する事を目的にそのようにしていると言う親もいる。 子どもの要求のままに、多量の弁当を買って与えている。(父子家庭) 	<ul style="list-style-type: none"> 両親が共働きで、不在時間が長い。 親の生活の在り方(朝帰り、留守、生活習慣不確立) ネグレクト⇒親の孤独も問題ではないか。 <p>→②-1 親の意識を変え、食生活を改善する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安心・安全な環境で、夜ご飯を大人と食べられる食堂・居場所をつくる。
虐待問題	<ul style="list-style-type: none"> きょうだいや姪っ子の世話をするために学校を休む。 小1の子が下の子の面倒をみなければならぬ。 家事の一切をしなないと、部活動をさせてもらえない。 小1でDVを受けている子がいる。 生傷が増えている子がいる。 児童相談所に見送られるケースがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ネグレクト 親がSOSを出すのを拒む。 <p>→③-1 地域でのセーフティネットが必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> コンビニやスーパーとの協力し、定期的な情報共有や話し合いの場を持つ。
親子関係の問題	<ul style="list-style-type: none"> 節約しても生活が苦しい家庭がある。母親は就労不可で、家族に引きこもり状態の人がいる。 子どもが親に話さず、親子のコミュニケーションがとれていない。 小学校低学年と未就学児の子の家庭で、父親は早朝から夜遅くまで働き、母親は病気でいる。身近に親戚がおらず子どもが孤立してしまう。 親が精神的な病を抱えており、子どもの前取り乱したり、自殺をほめめかしたりする。 知的障がいやアルコール中毒、子に無関心など、親に問題がある。 多子・母子家庭で生活保護を受けており、子どもが全員不登校、不衛生気味である。 祖父母が養育(祖母は若年認知、母親は別居) 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと対話できない親がいる。 障がいのある子どものサポートが苦しくて、母親が精神疾患。夫のサポートも厳しい。両親が精神的な疾患。 祖父母養育等の背景には若年出産がある。 <p>→④-1 専門家等の支援が必要。 ④-2 保護者が子どもの考えを聞く必要がある。 ④-3 親の困りごとを聞く必要がある。 地域の方の助け合いや積極的な会話が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 精神疾患のある親への定期的な支援を相談支援事業所が行う。 若年出産を予防するために性教育を行う。 沖縄市のような若年出産を支援する施設をつくる。 ホームページやSNSを活用して「困った」を共有できる仕組みをつくる。「困った」は人をつなぐ!!、「あなたの「困った」が社会を変える」等のステッカーをつくる。
不登校等教育問題	<ul style="list-style-type: none"> 引きこもり 友人トラブルで不登校 発達課題で不登校 発達障害(15歳)、家出を繰り返す。 中学卒業後は繋がらない。 落ち着かない、遊びに誘われやすい、学業不振 	<ul style="list-style-type: none"> 地域になかなか表面化してこない「隠された」、社会的に孤立している子どもがいる。 不登校や引きこもりには親(保護者)の理解が必要。 <p>→⑤-1 自立に向けてのトレーニングが必要。 ⑤-2 中学、高校等への進学支援が必要。 ⑤-3 最終目標を学校に戻すという学校の方針を変える必要がある。 ⑤-4 子どもの声を聞く人が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> フリースクール等を活用する。
居場所の活用確保	<ul style="list-style-type: none"> 児童センターに来れない子どもがいるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥-1 親の居場所も作れたらよい。 ⑥-2 子どものためのインフォーマルな居場所が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 全自治会に親と子のための居場所をつくる。 男子のためのシェルターをつくる。 15歳以上の若年支援する場所や、年齢別の居場所をつくる。 児童センター以外の、民間・NPOや公民館等の居場所を増やす。 保護者が夜遅く帰宅する家庭の子どもを一人にしないために、夜遅くまで対応できる施設をつくる。 「こども110番の家」のように、地域の店舗に協力してもらい、子どもが気軽に立ち寄れる(水などを飲める)場所をつくり、そのことが一目でわかるようにステッカーをつくる。
経済的な問題	<ul style="list-style-type: none"> 学級費も給食費も払えず、母親とも連絡がとれない状況が継続している。 電気がとまっていて、子どもは自宅に帰りたくないとつぶやく。 母親は生活や子育てに困り感があるが、父親が収入申告をしなかったため、公的支援に繋がらない。 ある学校の先生は、「貧困の子や、食べられない子はいない」と言う。 	<ul style="list-style-type: none"> 親がSOSを出すのを拒む。 経済的課題があるが、SOSが出せないのか。 <p>→⑦-1 子育て世帯の親が働きやすい職場環境が必要。(経済的にも働きやすく、居場所としての機能も持つような環境)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中学までの給食費、学級費の完全無料化 学校の費用やライフライン(電気代・水道代等)の滞納状況に関する情報を共有できるしくみをつくる。 給料をもらいながら、職場内で交代で子もりができる環境をつくる。

「宜野湾市に必要な子ども支援を考える」

(Bグループ)

子どもの貧困・社会的孤立に関する現状	問題の背景を踏まえ、どんな課題があるか	課題解決のアイデア	
<p>経済的な問題・体験機会等の困窮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活、塾、習い事をしたくても経済的に厳しくて行けない。その子の性能さえ発揮できない。 ・修学旅行に行けない ・児童館に来館する子の中に、昼食を食べない子がいる。 ・土曜日の昼食はいつも食べないと話す子がいる ・兄と妹で来館し、昼食がおにぎり1個ずつの日がある。 ・多子世帯で、子どもが子どもの世話をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細な経済問題、困窮、低所得のため支払う金がない。働いても生活費にしかつながらない。 ・母子家庭、ぎりぎり課税世帯 ・制度のはざま。ぎりぎり課税、就学奨励にも掛からない。制度の充実に必要。 ・多子のため、経済苦があり、昼就労している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会等、既存の学校行事に関係職者が参加しやすい体制を整える。(時間外手当、業務調整) ・学校と地域(自治会、民生委員、その他)との定期的な情報共有、交換の場をもつ ・学校、PTAなど情報交換ができる場作り ・就学援助制度の中で、ある一定の制限をいじりた上で部活にかかる費用を一部補助する
	<ul style="list-style-type: none"> ・母親が、妊娠前から漠然と子育てにかかる費用を心配している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・頼ることができない ・(補助等あるかもしれないが)関わる役所の窓口が、その都度違ったりして、説明するのこぼれてしまう。 ・協力者が理解し居らず、いっしょになっていない親へのアプローチが難しい。(支援者の課題) ・父親(パートナー、夫)が登壇、病気で働けない ・パートナーの収入が低く、結婚を考えられない 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代包括支援センターの体制整備を行う(関連課を連携して) ・経済的な問題等を相談できる事の周知。地域の方の身近な所、コンビニ、スーパー、ドラッグストアのトイレなど(啓発啓蒙活動) ・活用できる地域資源、子どもの居場所、イベントなどの啓発活動(役所と自治体主体で) ・報道機関(SNSの広告、ラジオ、テレビ、新聞)と連携し、子どもの居場所の積極的なPRや、制度等の情報(妊婦健診に関する費用が無料になっていること、貸付金などの情報等)の提供を推進する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・穴の開いた服を着ている子どもがいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親が子どもの服装に無関心。収入が低いため服は買えない 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と役所共催のイベントを開催する。(お下がりシェアのフリーマーケットなど) ・服、食器などの無償のやり取りができるバザーなどの開催(公民館、公園など) ・服のお下がりの場を夏服、冬服と年2回でもつって提供できる場所(地域のお祭りなどを活用して)
<p>多問題を抱える保護者・家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多子世帯で、子どもが子どもの世話をしている(再掲) ・毎年シラミが発生し不衛生。駆除されないため、授業でプールに入れない。 ・姉は自分で作ったおにぎりを持参。弟2人は、現金を持って来館 ・生活能力が不安定(言葉遣い、挨拶、態度) ・育児を両親にまわし投下状態で、本人は飲み会など遊び中心の生活を送っている。当人は現在離婚し、母子家庭である。暴力、不衛生など多々。問題行動がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親のネグレクト、育児方法が分からず育てられない ・多子、母子世帯・登壇あり、進路・就職 ・親が無気力。改善意識が低い ・家庭内で道徳的な教育を受けていない。親の養育能力がない ・親が夜間就労、ダブルワーク ・母子家庭で、夜子ども達だけ(小5、小1) ・若年(父母ともに) ・母親は、夜間就労 ・母親が病気で入院を繰り返している。父親は一生懸命だが、小さい子がいるため負担がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公民館を会議の場として開放(使用していない時間)中立の場である公民館を集う場として活用していくとよい。(集めるのは行政で行った方が良いかもしれない) ・役所へ行けない住民さんのサポーターを地域で創設する。隣近所の人を巻き込んでサポーターになってもらう(その手伝いを行政で行う)
	<ul style="list-style-type: none"> ・昼夜逆転して、登校できない ・登園(保育・幼稚園)できない、長期化する子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・親が精神疾患で服薬しており、朝起きることができない ・多子世帯で育児負担が大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患の親の日常生活(家事、育児など)のサポート。フォーマルサービスだと柔軟に使えなかつたりするため、理想としては、地域でサポートできると良い。
<p>居場所・支援を必要とする子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談できない、言えない環境 ・大人を信用できない。寄り添う大人がいない。 ・10代での妊娠 	<ul style="list-style-type: none"> ・親に恐怖心を抱き、親の知らない場所で行動 ・親子、先生等との関係性での不安定さからくる、大人のイメージの悪さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議で、その児童の“特技・良い点”に関する情報も収集する。その子が輝けるような支援をしていくため。 ・子どもシェルターの充実(フォーマルな社会資源で) ・病院に行けなさそうな方への医療費に関する話題を地域住民同士で情報提供できる(おせっかいおばさん的に)
	<ul style="list-style-type: none"> ・本当に居場所を必要としている子どもが繋がっていない。把握できていない。 ・外見だけでは、どの子どもが貧困が分からない ・居場所へは、決まった子どもしか来ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所の目的が明確。同じ色をもつ友人グループで参加して、周りが入りきれない(特に居場所利用開始当初の頃) ・外に出られない ・周りが宿題世帯とすらわからない ・自治会に未加入のため参加できない 	<ul style="list-style-type: none"> ・日によって居場所の目的を変える。学習の遊びの日、スポーツの日とか曜日で分けるようにすると、興味のあるテーマの日には居場所に行きやすくなる。 ・月1回は必ず学校・行政・地域との情報共有の場を持つように連携の仕組みをつくる。(できれば地域にある児童館などを中心にやれると連携しやすい) ・地域住民と学校との交流会。学校、地域主体でのつくり体験、敬老会、合同イベントなどを行う ・教諭が参加しやすい日時での研修開催(先生などは、研修になかなか参加できないので)

「宜野湾市に必要な子ども支援を考える」

(Cグループ)

	子どもの貧困・社会的孤立に関する現状	問題の背景を踏まえ、どんな課題があるか	課題解決のアイディア
外から見た中で気がなつたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・体調の悪い子どもの保護者へ連絡をしたところ、子どもは「病院へは行けない」と言われた。 ・児童館へ来て何をすることも「お金が出るの」と聞く子どもがいる。 ・児童センター等の長期休暇のイベントに参加できない子どもがいる。 ・昼食時に自宅へ帰らない子どもがいる ・夜遅くまで、居酒屋などで子連れで遊んでいる。 ・同じような活動をしている人、組織が多くあり、どこに繋がりがあるのか、拾いたい窓口にとどかない。混乱している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保険に入っていない ・就学援助の申請をしていない ⇒国保(子どもは切り離して保険に入ることができる)や就学援助の制度を周知していく必要がある ⇒情報をどのように伝えるかが課題 ・支援見守りをどこまで広げるか個人情報問題がある ・居場所に来られない子の情報をどのように把握していくか課題である。 ・学校との繋がりが弱体化→支援者の悩み ・生活福祉課、児童家庭課に繋いでいるが、その後の見守りをする人が少ない ⇒継続して支援するための関係機関同士や学校、地域とのネットワークづくりが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・申請等の手続きも複雑で、提出書類も複数揃えなければならぬ場合があるので簡素化の検討がわかりやすくしていく。 ・夜間でも申請等の受付ができるようにする。 ・利用できる制度を知らない家庭は、情報や社会ともつながっていない可能性も高いことから、声かけして、顔見知りになり、情報を伝える。 ・こどもの居場所や児童館などに遊びに来てと言った感じで、まずはそのような場所を知ってもらい、来てもらうようにする。 ・潜在化している問題については、市や学校の検診等の事業から情報や状況を把握していく。 ・地域の情報(活用できる居場所、連携できる人材)を拾っていく。 ・民生委員の対応方法、仕方を勉強する場の充実 ・長田には、児童館+社協+民生委員などで地域の情報を共有する場ができています。このような場を広げる。
居場所のない？ニートも、夜間外出・徘徊	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもだけで長時間遊んでいる(スーパーや公民館など) ・小学校中学年くらいから、夜間徘徊している子どもがいる。 ・夜遅くまで子どもを連れて、大型量販店などで出歩いている世帯がある(10時~11時ごろ)。 ・学校の授業中の時間にも関わらず、校外を歩いている子どもがいる。 ・多子世帯で、きょうだい不登校となるとほかの子も不登校となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家に居場所がない。 ・家にたれもいない(夜間)。寂しい。 ・家にいると虐待を受けてしまう。 ⇒遅くまで過ごすことのできる子どもの居場所が必要 ⇒親子のための支援が必要 ・不登校の原因となっている。 ・親が自分の楽しみを優先にして夜型になっている場合、子どもの生活習慣にも影響している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館や公民館などを活用して居場所づくりをしていく。 ・青年会などと連携し、青年会の活動なども居場所として活用する。 ・子どもの支援(規則正しい生活の習慣化等)を中心に取り組みを進め、子どもの支援の中から保護者へ伝わるようにする。←参加してほしい保護者が参加していない場合もあるため ・行政の事業からも気になる家庭が見えてくると思うので、関係するところからの声かけ、見守りをしていく。
要保護・準要保護世帯の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・要保護・準要保護世帯の増加 ・母子家庭の増加による低収入 ・虐待があっても家庭内が分からない 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての孤立化、地域のつながりが無くなっている。 ・キャッチして繋ぎ止めていくか、早期に対応しないといけない。 ・それぞれで対応しているが、繋がっていない ⇒子育ての孤立化 ⇒気になる子どもの早期発見・対応 ⇒支援のネットワークづくり 【他の項目にも共通する課題】 	<ul style="list-style-type: none"> ・潜在化している問題については、市や学校の検診等の事業から情報や状況を把握していく。
若年母子家庭の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・若年母子家庭の増加 ・負の連鎖 	<ul style="list-style-type: none"> ・若年母子家庭の増加 ・負の連鎖を断ち切る 	<ul style="list-style-type: none"> ・若年出産による貧困→夜の仕事。子どもの孤独→中卒で仕事→その子も若年出産→負の連鎖 ・母子支援施設の確保。 ・各種支援制度の情報を伝える。 ・学校教育の中で性、命の大切さを学ぶ機会をつくる。
保護者との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・未治療の虫歯の子どもがいる。虫歯が多い ・不衛生な子(お風呂に入っていない、汚れた衣服を着用、季節に合っていない服など) ・保育園・幼稚園に通園できない子どもがいる ・母親の子どもへの愛情不足(泣いていてもあやさない) ・子どもが発熱しても薬、食事を与えず受診もさせない。 ・子どもを夜間家におき、火事になりかけたこともある ・きょうだい(下の子)をみなければならず、学校に行けなくなった ・親が子どもに世話を課しており、学習への意欲を失わせた状況(成績も下がった) ・朝ごはんを食べていない子どもがいる ・夜遅くまで働いている場合、子どもを連れて行ってしまふ。子の夜更かし 	<ul style="list-style-type: none"> ・保険に入っていない ・ライフラインがとまっている ・ネグレクト ⇒国保の制度を周知していく必要がある ⇒各種支援事業(経済支援等)の周知が必要 ・支援に繋がっていない ・親の病氣 ・頼れる人、相談できる人と繋がっていない ・親の病氣、ネグレクト、生活リズムの悪化 ・婚姻がない。夫婦関係が複雑。母親の精神状態 ・保護者が、病氣のケア、食べないから与えないなど、子どもの世話の仕方が分からない ・シングルマザーで、お金が欲しかったため夜間に働いている ⇒親への支援(就労支援・生活支援(健康面も)等)を行っていく必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な窓口へつなぐ専門の人材を確保する。 ・民生委員児童委員などの地域人材も確保が必要 ・親の居場所づくり(子どもの居場所はあるので) ・子育ての孤立化防止に向けて、まずは声かけ、顔なじみになる。 ・行政の事業からも気になる家庭が見えてくると思うので、関係するところからの声かけ、見守りをしていく。 ・子ども支援に早期に対応し、的確な支援を行うための関係機関、組織のネットワークの拡充、強化 【他の項目にも共通する課題解決に向けた取組み】